

令和7年1月の解説（週間天気予報）

【1月の天候状況】

上旬は、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過したが、低気圧は北日本付近を通過しやすかった。また、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となった。旬降水量は、冬型の気圧配置や低気圧の影響を受けやすかったため、東日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側で多かった。また、低気圧の影響を受ける時期があったため、北・西日本太平洋側で多かった。期間の終わりには冬型の気圧配置が強まったため、日本海側の山沿いを中心に大雪となり、荒れた天気となった所があったほか、北・東日本では記録的な大雪となった所もあった。一方、低気圧の影響を受けにくかったため、旬降水量は、沖縄・奄美で少なかった。また、冬型の気圧配置の影響や西日本付近では高気圧に覆われた時期もあったため、旬間日照時間は、西日本太平洋側でかなり多く、北日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。日本付近は、寒気が流入した時期と、寒気が弱まった時期があったが、旬の後半には西日本を中心に強い寒気が流れ込んだため、旬平均気温は西日本で低かった。

中旬は、低気圧と高気圧が日本付近を交互に通過した。低気圧が日本の東へ通過後は冬型の気圧配置となったが長続きせず、日本付近は高気圧に覆われた時期もあった。このため、旬間日照時間は全国的に多く、東日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多かった。東日本日本海側では、旬間日照時間平年比が181%となり、1961年の統計開始以降、1月中旬として1位の多照となった。加えて、太平洋側を中心に低気圧の影響を受けにくかったため、旬降水量は西日本日本海側でかなり少なく、北・東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。旬平均気温は、寒気の影響を受けにくかったため、北・東日本で高かった。一方、期間の中頃には低気圧の影響や冬型の気圧配置が一時的に強まったことにより、北日本日本海側を中心に大雪となり、記録的な大雪となった所もあった。また、大陸からの高気圧の張り出しに伴う寒気の影響で、旬平均気温は沖縄・奄美で低かった。

下旬は、冬型の気圧配置が長続きせず、高気圧に覆われた時期もあった。このため、旬降水量は西日本日本海側と東・西日本太平洋側でかなり少なく、北日本日本海側で少なかった。また、旬間日照時間は北・西日本日本海側と東・西日本太平洋側でかなり多く、東日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。一方、低気圧の影響を受けた北日本太平洋側で旬間日照時間は少なかった。旬平均気温は、北日本を中心に寒気の影響が弱く、南からの暖かい空気が流れ込んだ時期もあり、北日本でかなり高く、東・西日本で高かった。特に北日本では、旬平均気温平年差が+3.1℃となり、1946年の統計開始以降、1月下旬として1位の高温となった。

【1月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7日目平均)は、例年値(注)よりも1ポイント低い78%となった。地方別の適中率では、3～7日目のすべての予報期間で四国と九州北部では例年値を上回ったが、北日本は例年値を下回った。最高気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.3℃小さい1.5℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなった。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.2℃小さい1.6℃で、北海道で例年値より大きかった以外は、各地方で例年値よりも小さくなった。

(注) 例年値は、2015年～2024年の平均値です。

【3月の週間天気予報の利用にあたって】

3月は、各地方とも次第に暖かくなり、気温の変化が大きくなる時期です。低気圧が接近すると南から暖かい風が吹き込んで気温が上がり、通過後は北からの冷たい風が吹き気温が下がるなど、一日の気温が大きく変動することがあります。1週間の中でも4月から5月頃のような暖かさから一転して、1月から2月頃の寒さとなることもあります。週間天気予報の利用にあたっては、天気とともに気温の変化にも留意してください。